令和６年６月吉日

各　位

ＯＡＴアグリオ株式会社

「オリオン水和剤４０」適用拡大のご案内

拝啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、かねてよりご協力を賜りました殺虫剤「オリオン水和剤４０」が令和６年６月 12 日付けにて適用拡大登録となりましたので、下記のとおりご案内申し上げます。

今後とも、皆様のご指導ご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。

敬具

記

商品名　　：　オリオン水和剤４０（第 18504 号）

有効成分・％　：　アラニカルブ ･･･ 40.0％

登録年月日　　：　令和６年６月 12 日（適用拡大）

〈1〉適用内容の変更：

・　作物名「ぶどう」の適用害虫名に「アザミウマ類」を追加する。

【変更後】（変更する作物のみ抜粋）

作物名	適　　用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	アラニカルブ を含む農薬の 総使用回数
ぶどう	アザミウマ類 チャノコカクモンハマキ カイガラムシ類 ケムシ類	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 45 日前まで	１回	散布	１回

〈2〉注意事項等の変更

使用上の注意事項に以下を追加

【追加】

(7) ぶどうの無袋栽培で使用する場合、果房に汚れが生じるので、果実肥大中期以降の散布はさけること。

【変更後】

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適　　用
病害虫名</th><th>希釈
倍数</th><th>使用液量</th><th>使用時期</th><th>本剤の
使用回数</th><th>使用
方法</th><th>アラニカルブを含む農薬の
総使用回数</th></tr>
<tr><td>かんきつ</td><td>アブラムシ類
ミカンハモグリガ
カイガラムシ類
ケムシ類
アザミウマ類
ケシキスイ類
コアオハナムグリ
ゴマダラカミキリ
ハマキムシ類
アゲハ類
ヨモギエダシャク
カネタタキ
ミカンバエ成虫
クワノミハムシ</td><td rowspan="2">1000
倍</td><td rowspan="9">200～700
L/10a</td><td>収穫 14 日
まで</td><td>３回以内</td><td rowspan="9">散布</td><td>３回以内</td></tr>
<tr><td rowspan="2">りんご</td><td>アブラムシ類
シンクイムシ類
キンモンホソガ
ギンモンハモグリガ
オオタバコガ
ハマキムシ類
カイガラムシ類</td><td rowspan="2">収穫前日まで</td><td rowspan="6">２回以内</td><td rowspan="6">２回以内</td></tr>
<tr><td>ケムシ類</td><td>1000～
1500
倍</td></tr>
<tr><td>なし</td><td>アブラムシ類
シンクイムシ類
ハマキムシ類
ケムシ類
カイガラムシ類</td><td rowspan="6">1000
倍</td><td>収穫 3 日前まで</td></tr>
<tr><td rowspan="2">もも</td><td>クビアカツヤカミキリ</td><td>成虫発生期
但し、収穫 14 日
前まで</td></tr>
<tr><td rowspan="2">アブラムシ類
シンクイムシ類
モモハモグリガ
カイガラムシ類
ケムシ類</td><td>収穫 14 日前まで</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ネクタリン</td><td>収穫 21 日前まで</td></tr>
<tr><td>クビアカツヤカミキリ</td><td>成虫発生期
但し、収穫 21 日
前まで</td></tr>
<tr><td>ぶどう</td><td>アザミウマ類
チャノコカクモンハマキ
カイガラムシ類
ケムシ類</td><td>収穫 45 日前まで</td><td rowspan="2">１回</td><td rowspan="2">１回</td></tr>
<tr><td>かき</td><td>アザミウマ類
イラガ類
カイガラムシ類
カキノヘタムシガ
ハスモンヨトウ
カキノヒメヨコバイ
ケムシ類
ハマキムシ類</td><td>収穫 21 日前まで</td></tr>
</table>

つづき

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適　　用
病害虫名</th><th>希釈
倍数</th><th>使用液量</th><th>使用時期</th><th>本剤の
使用回数</th><th>使用
方法</th><th>アラニカルブを含む農薬の
総使用回数</th></tr>
<tr><td rowspan="2">小粒核果類
（うめを除く）</td><td>アブラムシ類
ケムシ類</td><td rowspan="9">1000
倍</td><td rowspan="5">200～700
L/10a</td><td>収穫７日前まで</td><td rowspan="2">３回以内</td><td rowspan="12">散布</td><td rowspan="2">３回以内</td></tr>
<tr><td>クビアカツヤカミキリ</td><td>成虫発生期
但し、収穫７日前まで</td></tr>
<tr><td rowspan="2">うめ</td><td>アブラムシ類
ケムシ類
ノコメトガリキリガ</td><td>収穫７日前まで</td><td rowspan="2">３回以内</td><td rowspan="2">３回以内</td></tr>
<tr><td>クビアカツヤカミキリ</td><td>成虫発生期
但し、収穫７日前まで</td></tr>
<tr><td>びわ</td><td>アブラムシ類
ビワキジラミ</td><td>収穫７日前まで</td><td>５回以内</td><td>５回以内</td></tr>
<tr><td>ばれいしょ</td><td>ワタアブラムシ</td><td rowspan="7">100～300
L/10a</td><td rowspan="3">収穫前日まで</td><td rowspan="3">５回以内</td><td rowspan="3">５回以内</td></tr>
<tr><td>かんしょ</td><td>イモコガ
ナカジロシタバ
ハスモンヨトウ</td></tr>
<tr><td>メロン</td><td>アブラムシ類
ウリノメイガ</td></tr>
<tr><td>キャベツ</td><td>アオムシ
ヨトウムシ
タマナギンウワバ
アブラムシ類</td><td>収穫７日前まで</td><td>４回以内</td><td>４回以内</td></tr>
<tr><td>てんさい</td><td>ヨトウムシ
テンサイトビハムシ</td><td>1000～
1500
倍</td><td>収穫 14 日前まで</td><td rowspan="2">３回以内</td><td rowspan="2">３回以内</td></tr>
<tr><td>茶</td><td>チャノコカクモンハマキ</td><td>750 倍</td><td>200～400
L/10a</td><td>摘採 14 日前まで</td></tr>
<tr><td>きく</td><td>アブラムシ類
ハスモンヨトウ
オオタバコガ</td><td rowspan="3">1000
倍</td><td>100～300
L/10a</td><td rowspan="2">発生初期</td><td rowspan="3">５回以内</td><td rowspan="3">５回以内</td></tr>
<tr><td rowspan="2">さくら</td><td>ケムシ類</td><td rowspan="2">200～700
L/10a</td></tr>
<tr><td>クビアカツヤカミキリ</td><td>成虫発生期</td></tr>
</table>

使用上の注意事項

【変更後】

(1)　本剤を使用した場合には、メソミルを含む剤は使用しないこと。

(2)　使用量に合わせ薬液を調製し、使い切ること。

(3)　水溶性内袋入り製剤を使用する場合は、次の事項に注意すること。

①　内袋はぬれた手で触れないこと。

②　外袋の開封後は一度に使い切ることが望ましい。やむを得ず保管する場合でもできるだけ速やかに使い切ること。

③　薬剤調製の際は容器内の水に内袋を開封せずそのまま投入し、よく撹拌すること。

(4)　散布液調製後はそのまま放置せず、できるだけ速やかに散布すること。

(5)　混用に問題のある薬剤があるので、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。

(6)　りんごに使用する場合、落果のおそれがあるので開花後１ヶ月間は散布をさけること。

(7)　ぶどうの無袋栽培で使用する場合、果房に汚れが生じるので、果実肥大中期以降の散布はさけること。

(8)　茶のチャノコカクモンハマキの防除に使用する場合、巻葉後の散布は効果が劣る場合があるので、発蛾最盛期に散布すること。

(9)　ミカンキイロアザミウマの防除に使用する場合、生息密度が高まると効果が劣るので、初発生を見たらただちに散布すること。なお、ミカンキイロアザミウマは繁殖が速いので、散布はかけ残しがないようていねいに行うこと。

(10)　クビアカツヤカミキリの防除に使用する場合、成虫に直接かかるように散布すること。

(11)　ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。

①　ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。

②　受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。

③　関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。

(12)　蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。

(13)　散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ、調節すること。

(14)　本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

(15)　適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。